



関ロータークラブ

URL <http://www.seki-rc.org/> E-mail seki-rc@abelia.ocn.ne.jp
TEL (0575)22-9332 FAX(0575)22-9977

RID2630 ROTARY CLUB OF SEKI ■会長 藤井 淳 ■副会長 古田貴巳 ■幹事 三輪雄彦



2015~16 年度 国際ロータリーテーマ
「世界へのプレゼントになろう (Be a gift to the world)」
RI 会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン
2015~16 年度 関ロータークラブテーマ
「 ONE FOR ALL , ALL FOR ONE 」 第 50 代会長 藤井 淳

第 2378 号

平成 27 年 7 月 4 日 (土)

前例会の記録・第 2377 回 6 月 23 日(火)12:30

「認知症サポーター養成講座」

◆開会点鐘

◆「四つのテスト」斉唱

◆ビジター紹介

関市高齢福祉課 石黒真理様

中央第一包括支援センター社会福祉士 山田光広様

看護師 羽田野裕子様

主任ケアマネージャー 恩田峰代様

◆会長挨拶 高井昭裕



本日の例会では「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」による「認知症サポーター養成講座」を開催させていただきます。関市高齢福祉課の石黒真理様、関市中央第1地域包括センターの山田光広様、羽田野裕子様、恩田峰代様どうぞよろしくお願いたします。

認知症対策はわが国のみならず世界的な重要課題です。来年日本でサミットが開催されますが、2013年英国で開催されたサミットにおいてキャメロン英国首相の主導により世界的規模で先進国首脳が初めて認知症について語り合う「認知症サミット」が開催され研究費の増額などの共同宣言がなされました。その後フランス、カナダ、そして昨年1月に日本でその後継イベントが開催され、その際に安倍総理が厚生労働大臣に、認知症施策を加速させるための戦略の策定について指示されました。これを受けて本年1月17日に厚生労働省は関係省庁と共同して検討した上記新オレンジプランを発表しました。ここにおいて認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実

現が目指され、一般住民の認知症への理解を深めるための「認知症サポーター養成講座」の受講者を平成29年度末までに従来の600万人から800万人とする目標に引き上げられました。

この講座が皆様の社会的活動の一助となることを祈念するとともに、この一年間会員一同のあたたかいご支援ご協力により、今年度最終例会を迎えることができましたことに深謝申し上げて挨拶とさせていただきます。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員 西本理美

会員 48 名中 出席 28 名 出席率 60.87%

◎ニコボックス委員会 委員 林昇

会長・副会長・幹事の皆さん・・・関市高齢福祉課 石黒真理様、関市中央第一包括支援センター社会福祉士 山田光広様、看護師 羽田野裕子様、主任ケアマネージャー 恩田峰代様、本日は大変お忙しい中、ようこそ関ロータークラブへお越し下さいました。「認知症サポーター養成講座」しっかり勉強させていただきます。また、本日今年度最終例会です。皆様一年間例会運営等ご協力いただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。

山村、林(隆)、清水(善)、長尾、池村、加藤(浩)林(昇)の皆さん・・・三役の皆さん、一年間ご苦勞様でした。長いようであつという間に過ぎましたね。今後とも気を抜くことなくロータリーでのご活躍をご期待申し上げます。

藤井、加藤(照)、古田、山谷、岩倉、小原の皆さん・・・6月17日(水)あぶり亭でIGMが行われました。ホストの加藤浩二さん、大変お世話になりありがとうございました。あぶり亭の美味しい飛騨牛に舌鼓を打ちながら、清水善光さんより出していただいた「50周年記念事業」というテーマについて熱い討議が行われました。

三輪雄彦さん・・・BDカードありがとうございました。
48歳になりました。次年度幹事として、皆様のお役に立
てますよう頑張ります。

大岩寿喜子さん・・・誕生日にバースデーカードをい
ただきありがとうございました。

◆幹事報告

◎7月の例会予定表配布

◎7月のロータリーレート 1ドル：124円

◆「認知症サポーター養成講座」

社会福祉士 山田光広様



の紹介や調整などを行います。

相談ケースでは介護サービス利用に関する相談や
認知症対応に関する相談が多く寄せられており、ご自
宅を訪問するなどして介護サービス利用につなげる
支援や、認知症治療・予防への取り組みについて支援
をしています。

厚生労働省によりますと、今から10年後には
470万人が認知症高齢者となるとの予測がなされ
ています。この推計は現在要介護認定を受けている
方々のデータを基に試算した数値のため、要介護認定
を受けていない方で認知症がある高齢者の数を加え
ると更に多くなると考えられます。さらに近い将来認
知症となると予測される軽度認知障害のある方が
400万人と言われ、合計で870万人となり、日本
全国の高齢者人口約3600万人のうち約25%を
占める結果となります。この数字から見てもわかるよ
うに、近い将来4人に1人が認知症になると予測され
るなか、国ではこうした将来に備えるため認知症施策
として、オレンジプランを見直し新オレンジプランと
して取り組みを開始しています。

認知症の方の意思が尊重され、出来る限り住み慣れ
た地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることが
できる社会の実現を基本的な考え方として、認知症サ
ポーターの養成に力を注いでいます。

認知症サポーターとは、認知症の方やその家族の
「応援者」として温かい目で見守り偏見なく接してい
くことができる方々です。認知症サポーター研修を受
講された方にはそのシンボルとしてオレンジリング
を配付させていただいています。認知症を正しく理解

認知症サポーター
養成講座の前に、地
域包括支援センター
について紹介させて
いただきます。地域
包括支援センターは、
地域の高齢者の福
祉・介護・医療・健
康・生活に関する
様々な相談を受け付
け、相談者様の抱え
る悩みや問題につい
て、一緒に考え解決
できるようサービ



した者として、地域でその知識を役立ててください。

認知症の症状には大別して脳細胞の破壊により直
接おこる「中核症状」と中核症状をもとに本人の性格
や気質も影響しておこる「行動・心理症状」とがあり
ます。

中核症状では、「記憶障害」「見当識障害」「理解・判
断力の障害」「実行機能障害」という症状があります。

「記憶障害」や「見当識障害」は中核症状の中でも比
較的早期に現われ、家族や周辺の人が認知症に気付く
きっかけとなりますが、その症状に一番早く気付くの
は認知症の本人です。忘れたり思い違いをしたりとい
う失敗が続くことで、心に不安や焦りが現われるよう
になります。こんなとき周囲から失敗を指摘されたり、
とがめられたりすると、自分に自信が無くなり落ち込
んだり気力の低下を引き起こし、さらに認知症状が悪
化することにもなりかねないこととなります。

認知症状のある方を見かけたら、まずその行動を見
守り、必要な部分の声掛けや誘導をゆっくりと行うこ
とで、正しい行動を行うことが充分可能となります。
認知症だから出来ないのは仕方がないと言って周囲
の方があきらめではなく、認知症でもこれはできる、
この部分は自分で行うなど、本人のできることを見き
わめ、周囲が正しい知識をもってその行動を見守り支
えることが必要です。

認知症になっても安心して住みつづけられるまち
づくりを目指すためには、認知症について正しく理解
するための認知症サポーター養成講座を一人でも多
くの方が受講していくことが必要です。皆様の地域や
会社・事業所で認知症サポーター養成講座開催のご希
望がございましたらお気軽にお問い合わせください。

次例会のご案内 7月21日(火) 12:30
「ガバナー補佐指導によるクラブ・アッセンブリー」
東北北陸道グループガバナー補佐 羽田野優男様
担当：会長・幹事 7/14 休会

例 会：毎週火曜日 12:30 (第3週は水曜日に 18:30)
例会場：岐阜県関市本町 6-20 大垣共立銀行関支店2F
事務局：岐阜県関市平和通 7-10-25 アメリカ 2F